

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	(仮称)新潟市中央区川端町5丁目計画	
建設地	新潟県新潟市中央区	
用途地域	商業地域、準防火地域	
建物用途	集合住宅	
竣工年	2022年12月 竣工	
敷地面積	1,458.58 m ²	
建築面積	885.18 m ²	
延床面積	9,219.48 m ²	
階数	地上15階	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2020年12月23日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{49.2}{45.4} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 3.0
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.2		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 3.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 4.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.0		節水	LR2.1.1 4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全と創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

CASBEE新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新潟市中央区川端町5丁目計画	階数	地上15階
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	243人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 竣工	評価の実施日	2020年12月23日
敷地面積	1,459㎡	作成者	小林久高
建築面積	885㎡	確認日	2020年12月23日
延床面積	9,219㎡	確認者	小林久高



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>「信濃川とともに暮らす住まい」をコンセプトに全住戸信濃川側・南東向きの集合住宅です。専有空間は奥行のあるバルコニーやコンサバトリー等でゆとりある暮らしを演出し、2層吹抜けのダイナミックなエントランスホールを有したアプローチ廻りは、「萬代橋」に使用された御影石や歴史の積み重ねをイメージしたブリック積み等を使用し、地域の景観にも配慮しました。</p>		<p>2.3mの奥行のあるバルコニー等でゆとりある住環境を構築いたしました。また2層吹抜けのダイナミックなエントランスホールは「信濃川やすぎ堤緑地」の桜を借景として取り込むなど、廻りの環境を取り入れる配慮をおこなっております。</p>
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音環境に関しては特に居住部については標準以上の性能になるよう対策を施しました。温熱環境、光・視環境、空気環境については標準的なレベルになるよう配慮を行いました。	機能性・耐用性について全体的として標準的な性能を確保するよう配慮しました。	まちなみ景観については上記総合の項目にあるように地域性のある素材を使うなどして特に配慮いたしました。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
特に住宅部分については、ペアガラスの使用などで断熱性能を住宅性能表示の等級4相当に上げて、省エネルギー化に寄与するよう配慮いたしました。	節水型便器の使用などで省水などに特に配慮し、全体的には標準的なレベルとなるよう配慮いたしました。	集合住宅として、標準的な配慮を行いました。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される